

# 阿南町『水循環・資源循環のみち2022』構想 令和4年度策定

阿南町は、南アルプスと中央アルプスに挟まれ、南アルプスのふもとを流れる天竜川の上流に位置し、豊かな自然に恵まれた地で発展をしてきました。

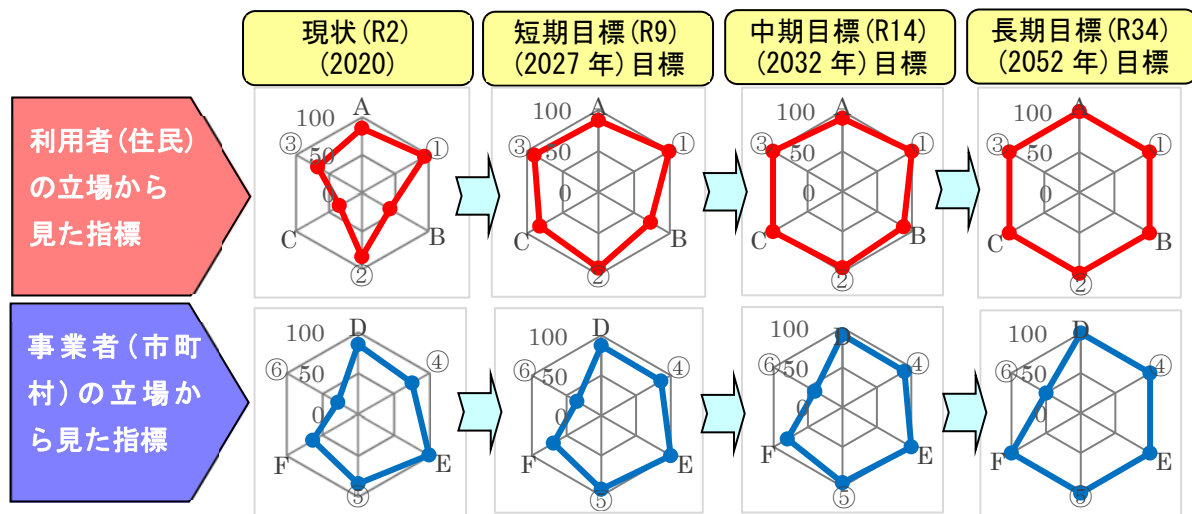
4つの地区（富草（T）・大下条（O）・和合（W）・新野（N））が思いをひとつにして、まちの現在を支え、まちの未来を育てる、住んで良かったと思えるまち（TOWN）を目指します。

生活排水対策は、平成3年から農業集落排水事業に着手し整備は完了していますが、まだまだ浄化槽整備が残っており、人口減少や高齢化社会へ対応した町全体の課題の1つとなっています。

このため、将来を見据えた経営計画等の見込みをたて、汚泥処理の対応、維持管理の効率化等を検討し、生活排水の持続的な運営と町の基本理念の実現に向け、令和4年度に、従来の構想を見直して、30年後までの生活排水対策の構想である阿南町「水循環・資源循環のみち2022」を策定しました。

## わが町の指標と目標

阿南町では、構想の目標年度である20年後を見据えて、利用者（住民）の立場から見た指標と事業者（町）から見た指標として、県下の統一指標の他、当町の現状を把握した上での独自指標を併せて設け、短期・中期・長期の目標を以下のとおり設定しました。



### ■利用者（住民）の立場から見た指標

#### (1) 暮らしの快適さと安全を表す評価項目

① 快適生活率(%) : 85.1→87.2→91.2→100.0 【県下統一指標】

② 公設トイレの水洗化率(%) →95.8→99.0→100.0→100.0

町公共施設、町営住宅、公衆トイレの水洗化率を表します。

(水洗化済公設トイレ/公設トイレ×100)

#### (2) 環境への配慮を表す評価項目

③ 環境改善指数(%) : 43.0→73.0→88.0→100.0 【県下統一指標】

④ 浄化槽の適正管理(%) : 85.0→92.0→95.0→100.0

浄化槽の適正管理率(法定検査受検率)を表します。

(法定検査受検浄化槽基数/全浄化槽基数×100)

#### (3) 生活との関連性を表す評価項目

⑤ 情報公開実施指数(%) : 34.4→82.2→100.0→100.0 【県下統一指標】

⑥ 環境学習実施指数 : 67.6→90.0→100.0→100.0

環境学習を実施した生徒数を表します。

(環境学習をした生徒数/環境学習実施学年全生徒数×100)

■事業者（市町村）の立場から見た指標

(1) 事業の達成度を表す評価項目

①汚水処理人口普及率(%)：85.1→87.2→91.2→100.0 【県下統一指標】

②浄化槽整備率(%)：76.0→86.0→90.0→100.0

浄化槽計画区域内での浄化槽整備率を表します。

(浄化槽整備人口/浄化槽計画区域内人口×100)

(2) 環境への貢献を表す評価項目

③バイオマス利活用率(%)：100.0→100.0→100.0→100.0 【県下統一指標】

④浄化槽適正管理補助率：85.0→92.0→95.0→100.0

全浄化槽基数に対する法定検査料補助基数割合を表します。

(法定検査補助基数/全浄化槽基数×100)

(3) 経営改善の状況を表す評価項目

⑤経営健全度(%)：64.0→69.0→80.0→100.0 【県下統一指標】

⑥下水道会計採算指数(%)：28.6→35.0→40.0→50.0

使用料収入による経営採算率を表します。

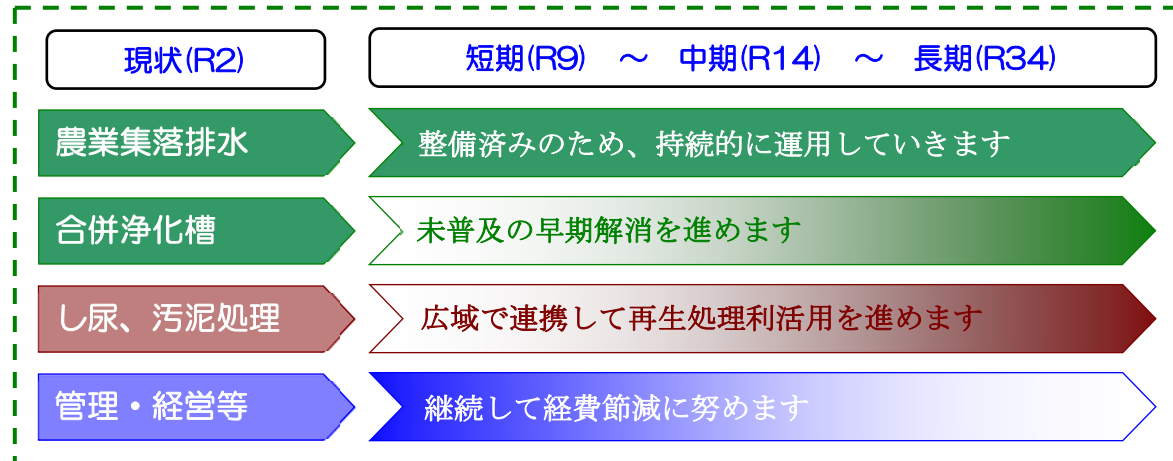
(使用料収入/(起債償還額+維持管理費)×100)

アクションプランへの取組

- 浄化槽設置の推進≫生活排水エリアマップ
- 汚泥の炭化処理継続による再利用の推進≫バイオマス利活用プラン
- 使用料金の改定≫経営プラン

阿南町の取り組み

これまで、多くの町民の皆様の御協力をいただき生活排水対策を進めてまいりましたが、これからも皆様に御理解をいただきながら持続的な生活排水対策と未普及地域の早期解消のため、下記のとおり進めてまいります。



皆様のご理解をいただきながら

これからも水と緑がうるおい、持続的に生活排水対策を持続していくため、住民の皆様のご理解と御協力をいただきながら事業を進めてまいります。

【これから、そして短期～中期～長期】

- 水環境の改善や状況について住民の皆様と実感できる取組を実施  
《町内の小学校児童が、より多く生活排水の処理の仕組みを学習として取り組む》
- 定期的な生活排水事業計画とその財政状況（経営状況）の公開  
《生活排水の実態を常に把握していただきながら、財政状況を周知する》
- 住民の皆様からの意見募集 → 次回の構想への反映や経営改善への共同作業へ  
《町の生活排水処理の将来像をアンケートや意見交換会を通して共有する》

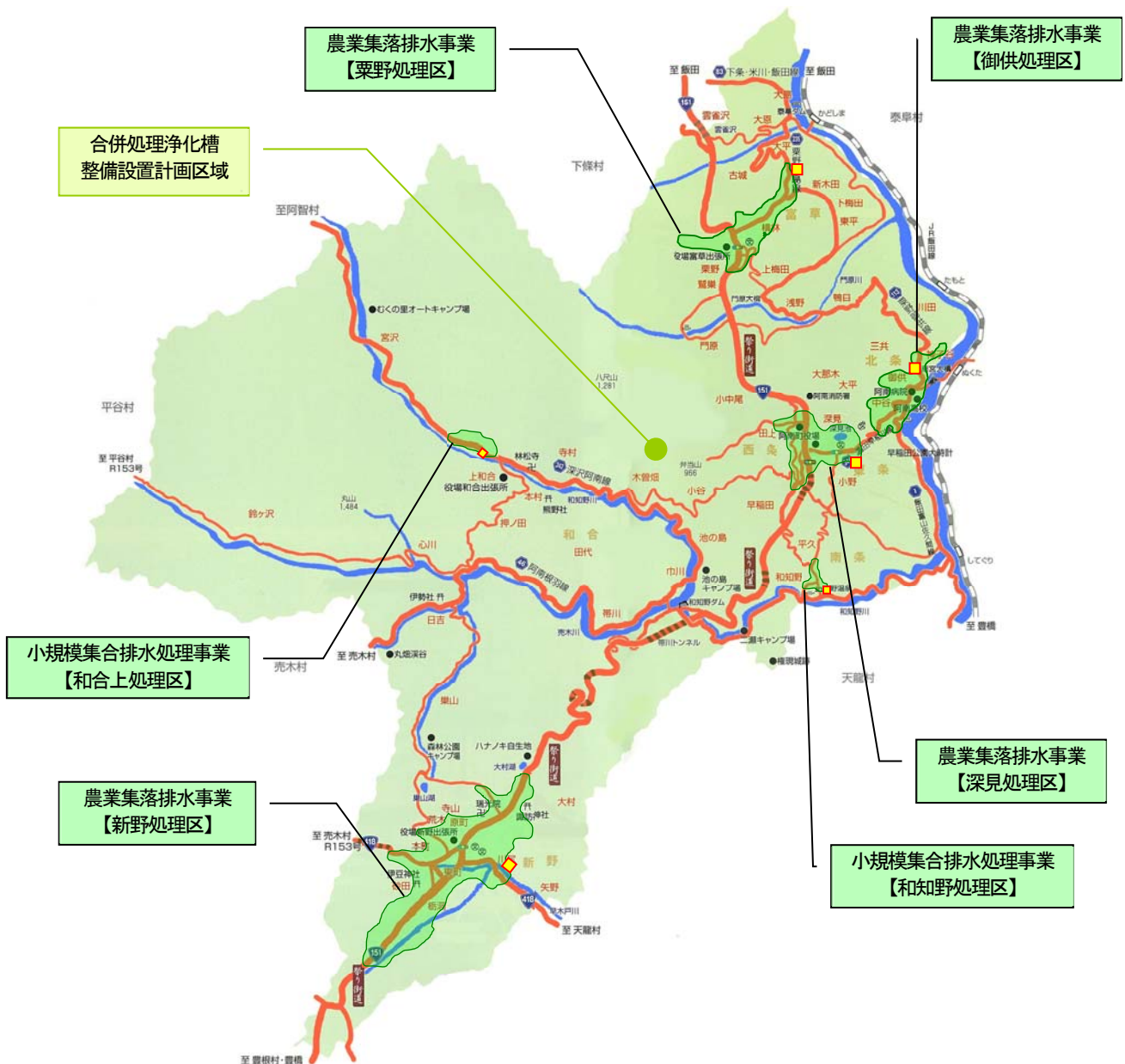
# 阿南町『生活排水エリアマップ2022』

令和4年度策定

阿南町の生活排水施設整備は、平成3年度に汚水処理施設整備構想エリアマップを作成し、農業集落排水事業と浄化槽事業で整備を行う方針を明確にした上で、まず農業集落排水新野・粟野地区に着手し、その後、和合上、深見、和知野、御供地区の農業集落排水整備と併せ、平成3年からは浄化槽による整備も進めてきました。

これまでの取組により、農業集落排水区域の整備は終了しましたが、それ以外の区域での浄化槽整備が残っているため、出来る限り早期に生活排水施設を設置していくよう進めてまいります。

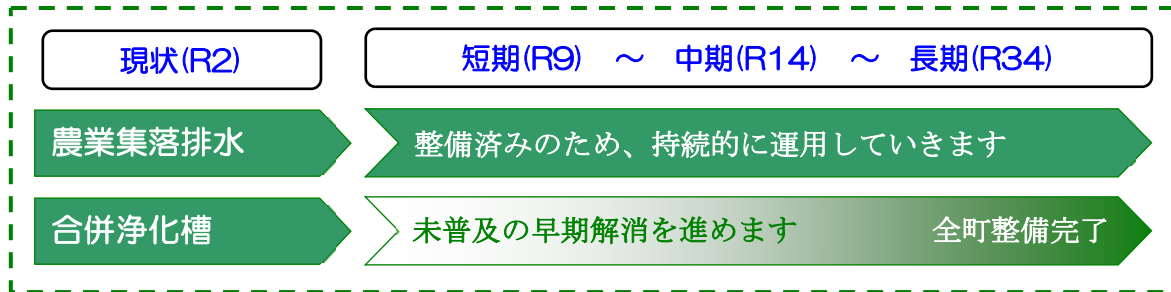
## 生活排水エリアマップ2022（概要図）



### アクションプランへの取組

集合処理である農業集落排水施設整備は完了していますので、個別処理となる浄化槽による整備を推進してまいります。

未普及地域は、浄化槽により長期の令和34年度までには全町整備完了を目指します。



### 地震対策への取組

#### ■大規模地震等に備えた対策

##### ① 地震被害想定へ向けた取組

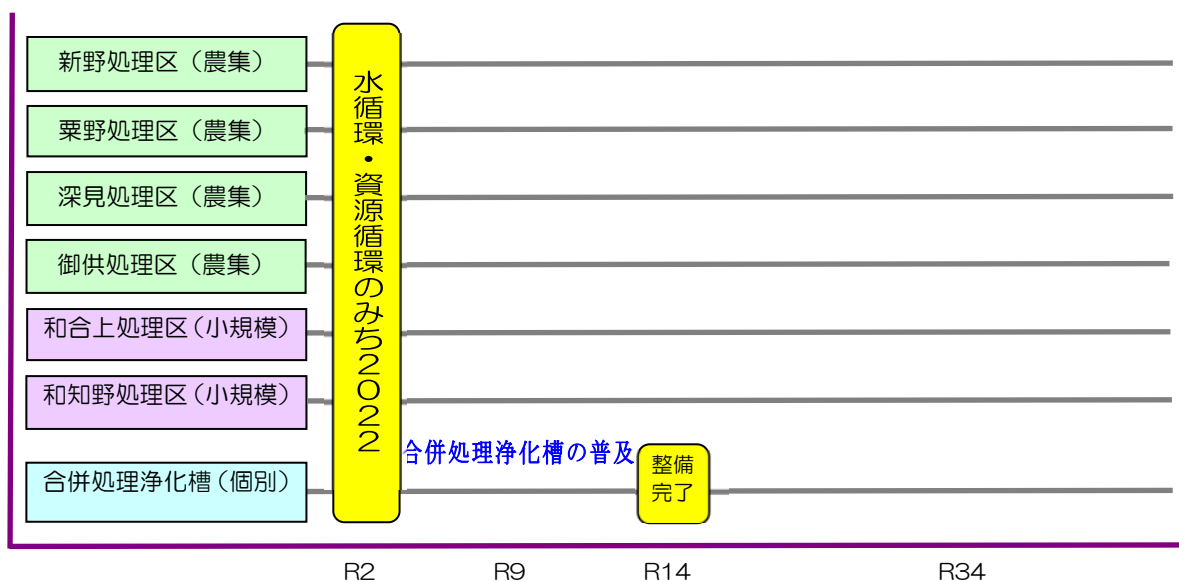
- ・被害想定や重要施設の耐震化を随時行っていきます。

##### ② 地震対策へ向けた取組

【短中期】避難所の簡易トイレ整備、事業継続計画等を検討します。農集排におけるBCP業務継続計画を策定し、事前対策を講じます。

【中長期】被害想定の下、ソフト対策を含む総合的な対策を検討します。

### エリアマップでの取り組みタイムスケジュール



## 阿南町『バイオマス利活用プラン2022』

令和4年度策定

阿南町の生活排水施設から発生する汚泥（バイオマス）は、農業集落排水汚泥、浄化槽汚泥、し尿とも、し尿処理施設で処理されています。また、現在の処理方法は脱水後、炭化処理し再利用をしています。

今後は、人口減少とともに汚泥量の減少、し尿の減少が見込まれるため、飯田下伊那地域内にある現施設の耐用期間後を見据えて、広域で施設運営や処理方法について検討を行い、管理コスト低減とバイオマス有効活用を推進してまいります。

### 阿南町におけるバイオマス利活用プラン

現状(R2)

短期(R9) ~ 中期(R14) ~ 長期(R34)

**【現状】汚泥（バイオマス）は、脱水後、炭化処理し脱臭剤として活用**



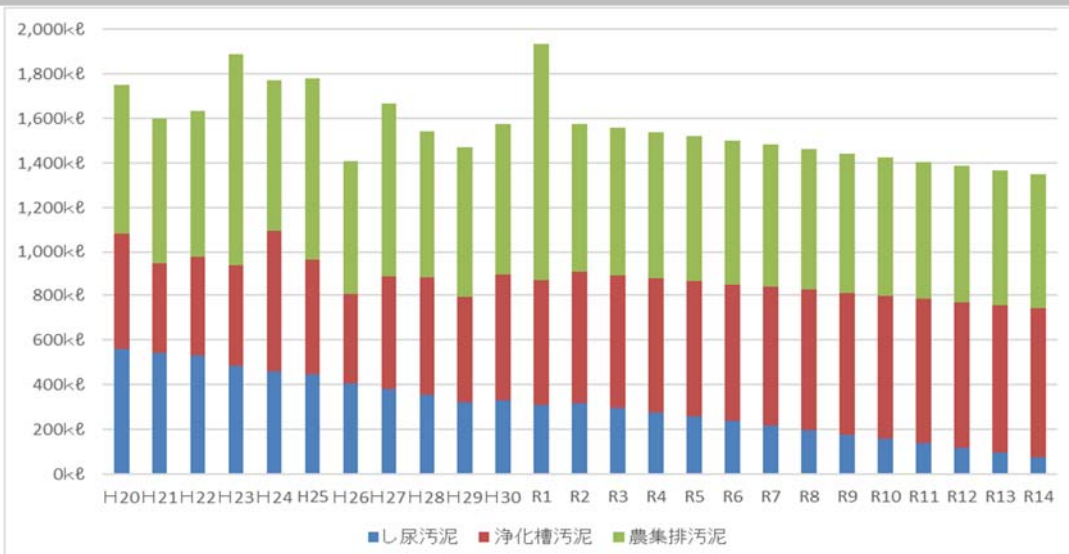
**【将来】は経費節減と利活用を進めます**

#### 【汚泥量の推移】

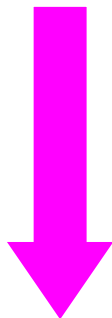
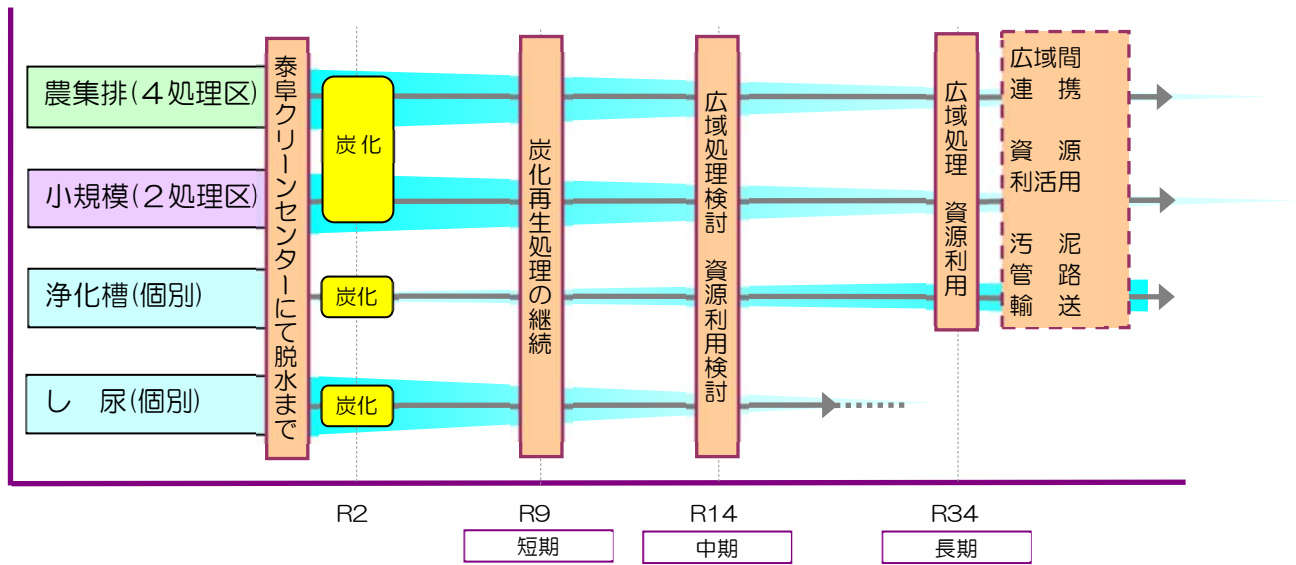
- 農集排汚泥は、人口減に伴い加入者数が減少することにより減少する。
- し尿汲取り世帯から浄化槽設置世帯に移行することに伴い、浄化槽汚泥は増加し、生し尿汚泥は減少する。

➡ 将来的には飯田下伊那地域全体でも汚泥量減少が見込まれる。

➡ 広域での汚泥(バイオマス)利活用が効率的な状況になる。



## バイオ活用タイムスケジュール



- 短期→中期にかけて  
 ○現状の炭化再生処理を継続  
 中期→長期にかけて  
 ○下伊那南部から 飯田下伊那地域に向けた取組  
 長期→将来にかけて  
 ○飯田下伊那地域が一体となった取組

## 飯田下伊那地域の広域的なバイオマス利活用プラン

広域的バイオマス利活用を進め、地域の資源循環を推進します。

### 【中期】

- 下伊那南部地域の「炭化処理」から「肥料化」等、資源循環に向けた検討

### 【長期】

- 飯田下伊那地域のそれぞれの生活排水汚泥について、広域的な処理方法等の検討や 次世代施設の場所選定の取組

### 【将来】

- 飯田下伊那地域の生活排水汚泥を一括集約処理し バイオマス利活用の取組

# 阿南町『経営プラン2022』

令和4年度策定

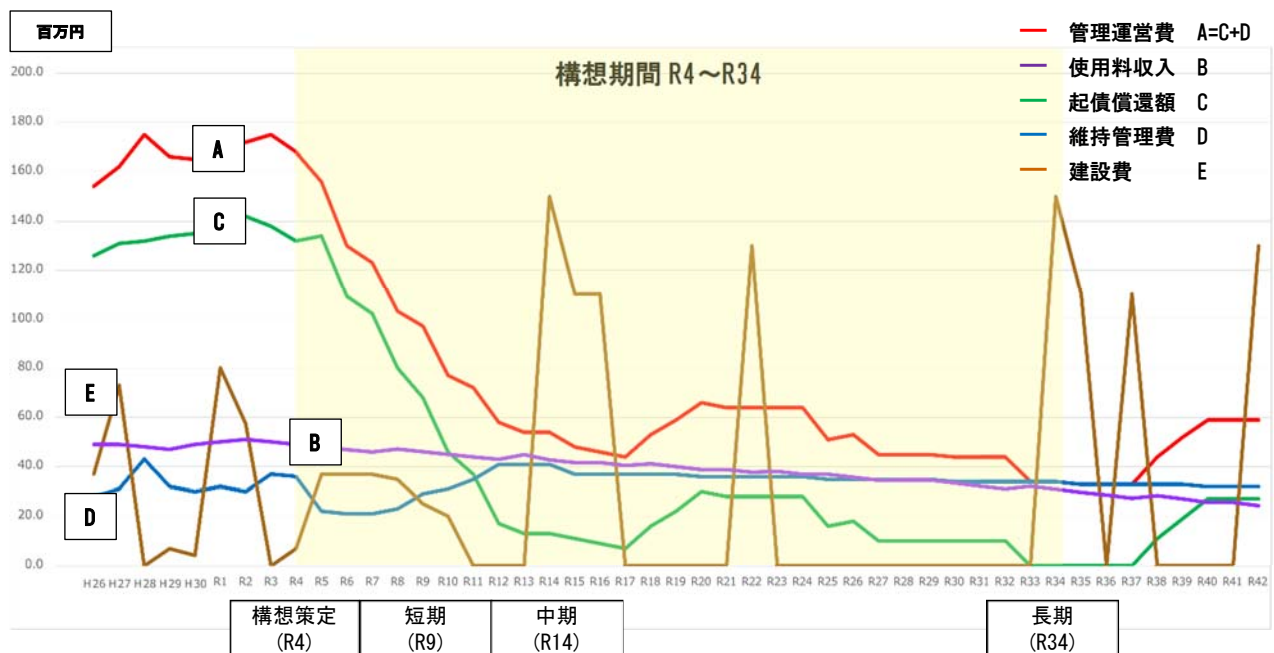
阿南町では、平成6年に農業集落排水新野・栗野処理区が供用開始して以来、和合上処理区、深見処理区、和知野処理区、御供処理区が供用開始済みとなっています。その経営状況は、使用料収入の他、一般会計からの繰入により賄われています。

このため、将来にわたって持続可能な経営を検討していく必要があります。50年先の状況まで見通した上で、構想の策定目標年度の30年後までにできる改善計画を検討し、「経営プラン2022」を策定しました。

## 経営の状況と今後の見込み

### ■管理経営の状況と見込み

- ≫ 人口減少等に伴い農業集落排水の料金収入は伸び悩み、将来的には減少する見込みのため、適正な料金設定を検討する必要があります。
- ≫ 維持管理費の効率化により管理経費の削減を進め使用料収入（B）と管理運営費（A）の均衡を図りますが、施設の機能強化工事実施及び工事実施に使用した起債の償還にあたり、一般会計からの繰入による経営状況が続く予定です。
- ≫ 今後、基数が増加する浄化槽については、現在、町からの管理補助金はありませんが、将来的には農業集落排水と同様に、全ての町民が同じように生活排水施設を利用していただけるような取組を行っていきます。



今後の管理経営等について

■管理経営状況の明確化

- ≫ 経営状況を公表し町民の皆様には状況をご確認していただく取組を行います。
- ≫ その上で、持続的な生活排水対策について、町民の誰もが一緒になってあらゆる視点から検討していけるような取組を行います。

■経営基盤の強化

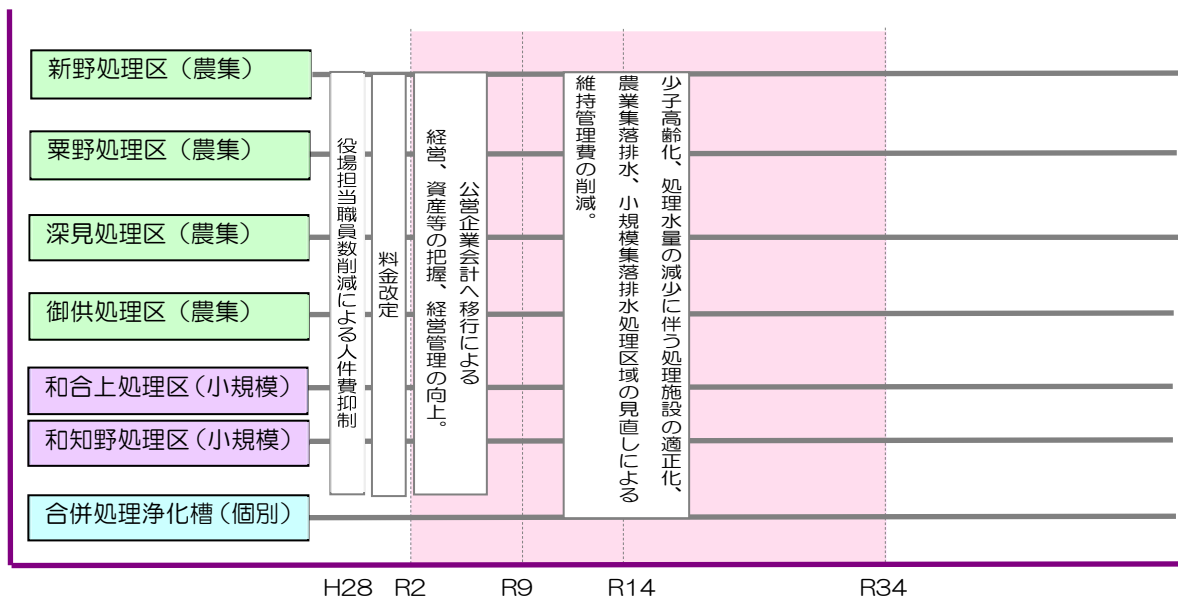
- ≫ 使用料金について町民の皆様のご理解を得ながら適正な料金についての検討を行ってまいります。

■少子高齢化への対応

- ≫ 今後は一段と少子高齢化が進行していきますが、安心して生活排水施設を利用できるように、関係者が一丸となって対応してまいります。

維持管理費削減への取り組み

- 少子高齢化により汚水発生量の減少を見込み、全体費用を抑制するため維持管理費用の積極的な削減への取組を行います。
- 公営企業会計への移行により経営管理の向上を図ります。
- 処理人口・処理水量に合わせた施設の適正化、処理区域の適正化を検討し、維持管理費の削減を図ります。





現状把握と効果検証

■阿南町「水循環・資源循環のみち2015」構想の見直しに当たり、事業者が構想における現状把握と効果検証を行いました。その結果は次のとおりです。  
また、その結果を基に今回見直しを行いました。

指標	現状把握 (令和2年度末現在)		効果検証結果	見直し方針
	計画	実績		
A:快適生活率	91	88.2	A指標は、目標に達していません。原因は高齢の方や独居の方の水洗化が進まないためと考えられます。	A指標は、少しずつではあるが向上しているため、当初目標どおりに進めます。
①:公設トイレの水 洗化率(%)	96	95.8	①指標は、目標に達していません。	①指標は、少しずつではあるが向上しているため、当初目標どおりに進めます。
B:環境改善指数	75	43	B指標は、目標に達していません。継続して行ってきた河川清掃等の活動がコロナの影響により中止となった影響と考えられます。	B指標は、当初目標どおりに進めます。
②:浄化槽適正管理 指数(%)	86	54	②指標は、目標に達していません。清掃実施指数が低いためと考えられます。	②分かりにくい指標であったため、指標の見直しを行ったうえで適正管理の啓発を行います。
C:情報公開実施指数	100	34.4	C指標は、目標に達していません。説明会の項目で減点となっています。	C指標は、当初目標どおりに進めます。
③:せせらぎサイエ ンス取組指数(%)	35	9	③指標は、目標に達していません。浄水場の見学者が小学校の決まった学年のみとなっているためと考えられます。	③目標達成が難しい指標であるため見直します。
D:汚水処理人口普及 率	94.7	86.8	D指標は、目標に達していません。浄化槽人口の伸び悩みが原因と考えられます。	D指標は、未普及地域の整備手法を見直し、当初目標どおりに進めます。
④:浄化槽整備率 (浄化槽設置率) (%)	88	76	④指標は、目標に達していません。	④指標は、より一層の浄化槽整備促進を図り、当初目標どおりに進めます。
E:バイオマス利活用 率	100	100	E指標は、目標どおり進んでいます。	E指標は、当初目標どおりに進めます。
⑤:浄化槽適正管理 補助率(%)	94	85	⑤指標は、目標に達していません。	⑤指標は、当初目標どおりに進めます。11条検査に係る費用は町で負担している為、検査の必要性についてさらなる周知を行います。
F:経営健全指数	100	29	F指標は、目標に達していません。	F指標は、維持費用抑制に努め当初目標どおりに進めます。
⑥:下水道会計採算 指数(%)	28	28.6	⑥指標は、目標どおり進んでいます。	⑥指標は、当初目標どおりに進めます。

